スクールの歴史

札幌少年ラグビースクールは、多くの関係者のご尽力により、30 年という歴史を刻み、多くのラガーマンを輩出してきました。ここでほんの少しですが、我々の歴史をご紹介します。

設立のころ

本誌編集担当者の手元にある開校 20 周年記念誌に、初代校長の越智康行さんの寄稿「スタートの頃」があります。この寄稿から、設立当時、札幌有惑クラブの皆さんが、ラグビーの発展のために、札幌における新たなスクールの設立に向けて議論を繰り返し、様々な準備を経て、当スクールを誕生させたことが分かります。

設立当時は次のようなものだったそうです。

○ 運営など

組織及びグランド確保（札幌有惑クラブが担当）

企画運営（朝日新聞の堀場寿男氏（有惑）が担当）

経理、会計（ＨＴＢの山木周治氏が担当）

○ 募集宣伝

1981 年４月には、朝日新聞やＨＴＢテレビスポットにより大規模な部員募集の広報活動を実施

○ 発会式

1981 年５月 10 日、自衛隊真駒内駐屯地内体育館において、応募者 77 名、父兄約 50 名、有惑クラブ員 25 名が集まり、後援の朝日新聞、ＨＴＢをはじめ報道数社が取材に訪れる中、盛大に発会式が開催されたそうです。

奥田幸夫氏へのインタビュー

設立当初から指導者として当スクールの運営に携わって来られた奥田幸夫氏に、設立当時のお話を伺いました。奥田氏は現在、総合型地域スポーツクラブ「札幌オールカマースポーツ倶楽部設立準備委員会」の事務局を務め、グランドの設営や地域の子ども達への指導、全道各地でのタグラグビーの普及などに汗を流されています。
（写真：8 月 7 日新川西グランドにて）

【奥田氏】

昭和 56 年当時、有惑メンバーで朝日新聞の堀場さん、彼が早稲田ＯＢでしたが、熱心にスクールを立ち上げようとして、初代校長の越智さんなどが自衛隊の真駒内の体育館を借りたり、様々な調整をして、設立できることとなりました。

当時は、朝日新聞の堀場さんと、ＨＴＢの山木さんという方がいて、大々的な募集広告を無償で出してくれました。

私は裏方として、そういう広告の調整などでテレビ局などにも何度も足を運びましたが、好きなことをやっていたので、一つも苦労とは思いませんでした。

【奥田氏】

この募集広告のおかげで、開校式のときには 70 名以上の子ども達が参加してくれました。当時のお父さん、お母さんはあまりラグビーを知らない方が多かったですが、お医者さんもいて、安心してもらえたのか、兄弟を皆入れてくれて、４人兄弟で入っているという家もありました。

下の写真は 59 年の合宿の写真です。当時は、小学校３年生から中学生まででしたが、100 名程度の生徒がいたと思います。

合宿は、２泊３日で定山渓小学校のグランドなどを借りて行いました。子ども達はとにかくこの合宿を楽しみにしていました。

当時は、函館にスクールがありましたが、札幌や小樽がスクールを立ち上げ始めた頃で、スクール大会のようなものはありませんでした。ですから、楕円球に触れて、楽しんでもらえること、そして桜のジャージ（日本代表）を目標に指導していました。

中学生は、２年に一度、全道の中学生をまとめて、東京に遠征していました。当初は函館中心のチームで、札幌、小樽の子が出してもらえず、私が「皆出してやれ」と函館の指導者と喧嘩したこともありました。

やがて、自分の子どもがスクールを卒業して、今の工藤副校長に全て事務局のことをお渡しして、世代交代をしました。

現在は、この新川のグランドで、地域の子ども達やクラブチーム、誰でも、いつでもいいのです、ラグビーをやってもらいたいと思って、札幌市とグランドの交渉をしたり、芝を刈ったり、ラインを引いたりしています。

私は、札幌市の規模から、札幌少年ラグビースクールだけではなく、スクールが３つ、４つ、当然にあって良いと思っています。

今の夢はこの新川のグランドから、オリンピック選手が出てほしいと思っています。

（先人の言葉の重さに脱帽しました（編））

昭和 59 年合宿（定山渓）